

高い漂白効果と安全性 患者さん思いの オフィスホワイトニング材



東京都渋谷区
青山通り表参道歯科クリニック
院長 大多良 俊光

中国の「孫子」に「彼を知り己を知れば、百戦して殆（あや）うからず」という有名なフレーズがあります。相手をよく知り、客観的に判断する冷静さが大切であることは、個々の患者さんを診る歯科医療でもなんら変わりません。

患者さんの共感を得るためには、インフォームドコンセントはもちろんのこと、インフォームドチョイスからインフォームドディシジョンにまで踏み込んだ、患者さんへのきめ細かなアプローチや、患者さんとの親密なコミュニケーションの重要性は言うまでもないでしょう。

このような診療スタンスで、昨年11月の開業時から、「美容と医療の共生」を目標にしながら、単に歯を白くきれいにするだけでなく、ツヤ・形態などのデザイン性も考慮しつつ、歯や歯茎の咬合機能を回復し、自然な美しさを蘇らせることを基本ポリシーとして診療に努めているところです。

メタルが気になる、着色・変色が気になると悩んでおられる方が、性別や世代に関わりなく多くなっています。もちろん審美性や機能性は重要ですが、まず患者さんにとって、その治療が本当に必要なのかどうかを患者さんと一緒に考えることが大切だと常々考えています。

歯を白くする方法は、クリーニング（PMTC）やホワイトニングのほか、ラミネートベニアやオールセラミックによる審美修復まで選択肢が多種多彩ですから、いかに患者さんの口腔内の状況とニーズに即した診療を行うかが重要になってくると思います。

歯科用漂白材のピレーネの特色は、何よりもまず漂白効果が優れており、透明感が高いことが挙げられるでしょう。この漂白効果は、消毒用オキシドールと同じ3.5%という低濃度過酸化水素水と、二酸化チタンが光触媒として働き、

症例 1



歯が黄色いのでホワイトニングをしてみたいということで来院。ピレーネでホワイトニングを2回行った。

症例 2



歯が黄色いのでホワイトニングをしてみたいということで来院。ピレーネでホワイトニングを2回行った。

症例 3



モデルなどの仕事をされている方で、歯の色を白くしたいということで来院。ピレーネでホワイトニングを3回行い、1はウォーキングブリーチを行った。

過酸化水素水から効率的にハイドロキシラジカルを発生させるからです。

安全性の点では、食品添加物や歯磨剤にも使われている二酸化チタンを採用していることでも確かですが、低濃度過酸化水素水を使っているために、口腔内でも安全に使用することができるわけです。

また、低濃度過酸化水素水のpHが通常のオフィスホワイトニング用漂白材（pH3～5）と比較して、中性に近いので（pH6）、歯質・歯肉へのダメージが緩和され、知覚過敏を防ぐことができることも、患者さんへの配慮を感じます。

操作性の点では、口唇や歯肉の保護のための専用プロテクトなどの必要がないので、術前準備がかなり短縮できますし、過酸化水素水と二酸化チタンジェルを混ぜるだけなので、すぐ処置に入ることができる点も術者にとっては、魅力でしょう。しかも、歯面処理が簡単なので、チェアタイムが短縮され、患者さんのストレスも軽減されることも大きなメリットです。

さらに、オフィスホワイトニング材としては、国内で二番目に厚生省の認可を受けた製品ですから、患者さんに特性を説明しやすく、患者さんは理解しやすいので、インフォームドコンセントが進めやすく、トータルの結果として、患者さんの信頼感を深めることにつながっています。



高いホワイトニング効果だけでなく、歯が本来持っている固有の白さを引き出すこと、重度な歯肉保護の必要がないこと、歯がしみない、痛みが少ない、エナメル質への影響が少ないことなど、歯質・歯肉へのやさしさを両立させた、患者さん思いのオフィスホワイトニング材として、お褒めしたいと思います。

今回の症例でも明らかですが、初回の漂白後、再度同様な処置を繰り返せば、さらに漂白効果が高まり、後戻りはほとんど感じられません。手軽に歯を白くできるという簡便さと安心感が、満足度の高いピレーネの人気のヒミツですね。

症例 4



歯並びと歯の色を改善したいということで来院。ピレーネでホワイトニングを行い、シェードを上げてから 3+3 をオールセラミック（ジルコニア）で修復した。